

◆『Intelligence』購読会員の皆さまへ：ニュース・レターNo.57（2018年11月号）◆

平成30年もあと残すところ二ヶ月を切り、気の早い商店ではクリスマスの飾り付けも見られる頃となりましたが、いかがお過ごしでしょうか。さて、現在『Intelligence』第19号は来年三月末の発行を目指して編集を進めております。その次の20号の投稿原稿も募集しております。締め切りは、毎年9月末です。投稿をご予定の方は、事務局まであらかじめご連絡頂ければ幸いです。

ご愛読の会員の皆さまには、ニュース・レターとともに「Intelligence」会員専用ウェブサイト <http://www.bunsei.co.jp/ja/intelligenceuser.html> また、会員向けブログとあわせてご覧いただければ幸いです。皆さまからのご意見、ご要望をお待ちしております。

【**ブログ用エッセイ募集**】会員向けブログでのエッセイは、お楽しみ頂いていますでしょうか。現在第27回のアンニさんのエッセイまでネットでご覧頂けるようになっています。いろいろな方の研究上の興味深い逸話をご執筆いただいております。このブログのエッセイの執筆希望者を、購読会員の中から募っております。研究関する小話やヒント、資料紹介などを会員向けブログに掲載なさりたい方は、お原稿をお待ちしております。原稿の長さは千字程度、写真を二葉そえてご提出下さい。詳しいことは、事務局までご連絡下さい。

【**第122回研究会**】（10月20日（土）午後2時30分～5時30分）

・太田奈名子（東京大学大学院・日本学術振興会特別研究員）「占領期ラジオ番組と「民主化」―『街頭録音』ガード下の娘たちの放送回を中心に―」：1947年4月22日放送の「青少年の不良化をどうして防ぐか その二 ガード下の娘たち」は、NHKアナウンサー兼プロデューサー・藤倉修一が有楽町にたむろする女性、いわゆるパンパンの声を、コートの袖口の下に隠したマイクにより録音したものであった。そこでの女性たちの語りについて言語学的に分析し、藤倉が何を彼女たちから引き出そうとしたのか、またCIEの番組制作・編集意図は何であったのかを探り、それぞれの立場よりなる力学、会話にみる談話構造のパターン変化を考察して下さいました。

・フフバートル（昭和女子大学）「ケンブリッジ大学所蔵満洲国発行モンゴル語雑誌 Yeke këke tuy（大青旗）について」：ケンブリッジ大学アジア中東研究科図書館に所蔵されていた、満洲国時代の新京で発行されたモンゴル語の雑誌『大青旗』の概要と価値について、話して下さいました。

・白山真理（日本カメラ財団）「同盟通信と写真協会：内山林之助資料発見を機に」終戦の日に皇居前でひざまずく人々の姿を撮影した同盟通信社所属のカメラマン、内山林之助の遺品を中心とする新資料に基づき、戦局の深刻化に伴い進行した写真団体統合の流れや、通信社とプロパガンダ写真の関わりなどについて、戦中写真史研究の新しい側面の可能性を示唆して下さいました。また発表を受けて、情報宣伝活動の役割をになったグラフ誌『写真週報』がどのように流通していたのか、内山が撮影した東条英機の肖像写真をどのように解釈するかといった質問が出ました。

●11月以降の20世紀メディア研究会の開催予定は、11月17日（土）、12月15日（土）、1月26日（土）、3月30日（土）、4月27日（土）に予定しております。また、12月15日は国際シンポジウムを開催予定です。そのプログラムについては近日中にお知らせします。なお、研究会でのご報告御希望の方は、20世紀メディア研究所事務所 m20th@list.waseda.jp まで、メールにてご一報下さい。

【平成歌謡】

先日、あるテレビ番組で平成時代の流行歌を特集していたのを見た。平成も30年で終わるというので、「昭和歌謡」にならって「平成歌謡」を振り返ろうという意図だった。そのいくつかの歌を聴いているうちに、なんとなく違和感がわき上がってきた。なんだか歌詞がやたらに“道徳的”なのだ。「僕がいるから大丈夫」「泣かないで、君を守ってあげるから」「前に続く道のどこかに望みはあるから」「もう大丈夫、きっと全てはうまくいく」「心配ないからね 君の想いが誰かに届く 明日がきっとある」「その花を咲かせることだけに一生懸命になればいい」「がんばってみるよ、やれるだけ」うーん、なんだか安心させ励ましている歌が多くて、しまいにはお説教めいて聞こえてくる。歌謡曲って、もっとどうしようもない感情や情念を解放すべく歌うものではなかったかしら？ 昭和歌謡にも「365歩のマーチ」とか、元気づける歌はあったけれど、こういう平成歌謡を聴いていると、なんだか“正しい道徳”的すぎて疲れてくる気がするの、単に世代のちがいのせいなのでしょう。平成の終わりにあたって、どなたか社会心理的に分析して解説してくれると嬉しいのですが。

[11月13日付 文責：土屋礼子]